



8/1

色 夏休みワークショップ「江馬館で自分だけの箱庭を作ってみよう！」 彩や配置のバランスを考えながら箱庭づくり

特レポ

神岡町の国史跡・名勝の江馬氏館跡公園で、飛騨神岡町街づくり実行委員会の主催で夏休みワークショップ「江馬館で自分だけの箱庭を作ってみよう！」が開かれ、市内の親子連れら12組30人が参加しました。

最初に市教委文化振興課の学芸員、大下永さんから室町時代に造られた江馬館と、庭園の特徴として岩の組み方を工夫して滝や島をつくったりしたことを学習。引き続き同町の中谷造園の中谷一隆社長を講師に箱庭を作りました。

参加した児童らは家族が見守る中、あらかじめ用意された樹脂製の容器に土を敷き詰め、リュウノヒゲやナンテン、アケボノザサなどを思い思いに植えた後、スギゴケですき間を埋めたり、白い化粧砂で「小川」などを作って仕上げました。中には貝殻などを持参して飾りつけている子供たちもいました。



8/4

8/18

百 古川町の岡田夏子さん、神岡町の福永すづさんにお祝い 歳のお誕生日、おめでとうございます

古川町下気多の岡田夏子さん(大正11年7月14生まれ)、神岡町東雲の福永すづさん(大正11年8月14生まれ)が今年、満100歳の誕生日を迎えられ、市は花束や褒賞金などを贈呈して長寿をお祝しました。



岡田夏子さん



福永すづさん

8/7

3 神岡町の船津座や周辺の河川敷でイベント 年ぶりにイベント「ミズベリング」を開催しました

神岡町を流れる高原川周辺のさらなるにぎわい創出と地域の活性化を図る催し「高原川ミズベリング in 神岡 2022」が、同町の船津座や周辺の河川敷で行われました。

「ミズベリング・プロジェクト」とは、まだ十分には活用されていない日本の水辺の新たな可能性を模索し、創造していく官民協働の事業です。飛騨市では、古くから住民に親しまれ、同町のシンボルの一つともなっている高原川を舞台に、この事業が進められています。新型コロナの影響でイベントの自粛が続いていましたが、今年は3年ぶりに開催されました。

会場には高原川に生息する魚を見られるミニ水族館の設置や、キッチンカーなどの飲食バザー出店、お笑い芸人によるエンタメライブも行われました。子どもらを対象にした魚のつかみどりもあり、会場は親子連れなどでにぎわいました。



8/8

町「ちょっと身近な街クラシック」を初開催 中のカフェで一流の演奏家によるコンサート

特レポ

飛騨音楽の里主催「真夏の夜のコンサート」の開催を前に、東京フィルハーモニー交響楽団のトップメンバーによる演奏会「ちょっと身近な街クラシック」が、FabCafe Hida(ファブカフェヒダ)で行われました。

金木さんは「旧河合村時代から22年の縁があり、仲間が増えて規模が大きくなってきたが、地域の皆さんとの交流が少なかったため、初めての試みとして街中のカフェでのミニコンサートを開催した。私服で演奏するので、皆さんも気軽に聴いてほしい」と挨拶されました。

この日は、同楽団ゲストコンサートマスター川田知子さん・会田莉凡さん、同楽団首席ヴィオラ奏者須田祥子さん、同楽団首席チェロ奏者金木博幸さん、同楽団首席コントラバス奏者黒木岩寿さんの5人が4曲を披露。会場には17人が訪れ、一流の音楽家の演奏を間近で堪能しました。



8/9

走 種蔵・打保バイパスの成手一塩屋間が供用開始 走行時間の短縮や安全性の向上に期待

一般国道360号種蔵・打保バイパス整備区間のうち、成手一塩屋間がこのほど開通し、安全祈願祭と記念式典が現地で開催されました。テープカットやくす玉割り、渡り初めなどで開通を祝い、白峰太鼓の演奏や、塩屋若社による獅子舞の披露もあり、式典に花を添えました。

今回供用を始めたのは、成手橋(92m)と塩屋トンネル(946m)を含む成手一塩屋間、延長約1.5km。片側1車線で、道路幅員は6.5m、路肩を含めると全幅9mです。一部区間で片側に幅員2.5mの歩道が設置されています。道路延長は約1.1km短くなり、走行時間は約6.5分短縮。狭い道幅や曲がりくねった箇所が改善され、落石や土砂災害、雪崩などの自然災害による危険や、JR高山線の踏切が解消されることで円滑な通行ができ、安全性の向上が期待されています。



8/13

8/14

3 市内各地で花火大会を開催 年ぶりに夏の夜の音ひびく

夏本番を迎え、市内各地で夏祭りや盆踊り、イベントなどが開催されました。特に目玉となるのは、花火の打ち上げ。コロナ禍の影響で、ここ数年は開催自粛が続いていましたが、今年は感染対策をほどこして開催。大勢の人が夜空を彩る「大輪の花」を見上げました。



古川町



宮川町



神岡町



8/18

子 飛驒市全天候型遊び場検討委員会 子ども同士、親同士が交流できる施設を

特レポ

天候に影響を受けず子どもたちが遊べる環境の整備について検討する「飛驒市全天候型遊び場検討委員会」から、これまでの検討内容を市長と全天候型子どもの遊び場など複合施設を建設予定の飛驒古川駅東開発株式会社田端一盛代表取締役らに同席いただき報告しました。委員会を代表して出席した太田亮さんは、新たな遊び場について「子ども同士がかかりあい、親同士も交流できる新しい価値観に出会える施設にしてほしい」と要望。田端さんは「私も子どもがおり、要望内容は私が望む内容をほとんど網羅している。安全にも配慮して考えていきたい」などと話しました。都竹市長は「遊び場については、市も3年前に検討を始めていた。新しい施設は難しく既存の施設で考えていたが、民間運営という形で利用してもらえれば、市民の利用に対する支援は具体的になってきたところで検討したい」と話しました。



8/19

8/30

市 叙勲の伝達式が行われました 政発展や教育振興に貢献された方々に勲章

4期16年にわたって古川町議会議員を務められた故・大塚吉三郎さんが「旭日単光章」を受章され、8月19日に長男の智英さんが都竹市長から勲記、勲章の伝達を受けました。

また、永きにわたり教育業務に従事され、教育振興に多大な貢献をされた重山邦雄さんと草壁功さんが「瑞宝双光章」を受章され、8月30日に都竹市長から勲記、勲章の伝達を受けました。



大塚智英さん



中央左：草壁功さん・中央右：重山邦雄さん

8/21

ト 河合町の井関農園で「畑でクッキング 2022」 トマトの収穫やピザ作り、畑の探索を楽しみました

小学生とその保護者らを対象に、自然にふれながら旬の野菜を畑で収穫して味わってもらう体験イベント「畑でクッキング 2022」が、河合町稲越の井関農園で開かれました。

子どもらに、食物のなり立ちを知り、収穫・調理・食べるまでの「食」に関する一連の過程を体感してもらったり、環境負荷を軽減するなどのこだわりを持った農家の取り組みを広く知ってもらおうと行われている催し。当日は、市内や高山市などから親子連れ8組25人が参加しました。

畑でミニトマトや大玉トマトを収穫したり、トマトやナス、地元のチーズなどをトッピングした直径20センチほどのピザをその場で焼いて味わいました。参加した伊佐次紗和さんは「トマトが嫌いだったけど、いっぱい食べられた。ピザ生地を伸ばすところが楽しかった。トマトソースやチーズをのせたら美味しかった」と感想を話していました。

